

公益財団法人 松園尚己記念財団

My graduation 2021

氏名: A.I

電力会社勤務

大阪大学大学院 工学研究科 環境エネルギー工学専攻卒

この大学院での2年間を振り返ると、講義や研究などの学習活動とアルバイトや友好関係などの私生活とのバランスがとれた、とても充実した時間であったと思います。その中でも、やはり研究活動がメインであり、その中で多くのことを学びました。学部4年生の頃から研究室に所属し、大学院においても引き続き同じ研究室で研究活動を行いました。学部4年生では、基礎的な知識をつけ、自分の卒業論文を完成させることで精一杯でしたが、大学院に入ると、研究の進め方を自分なりにつかむことができ、学部4年生の頃より一歩も二歩も踏み込んだ研究ができるようになりました。また、自分の研究だけでなく、後輩の研究の面倒を見る必要があり、困難にぶつかった時には一緒に解決策を考えたり、時には後輩以上に頭を悩ませたりしました。そのように後輩の研究について懸命に考えたことが自分の研究につながり、自分の知識にもなるため、後輩の面倒を見ることは相互に良い影響があるのだと実感しました。また、後輩だけでなく、先輩や同期とそれぞれの研究について相談することで、研究室全体でレベルアップしながら、研究を進めることができたと思います。そのように、学生同士で協力しながら研究を進めましたが、やはりそれでもわからない点は多く、研究室の先生方には大変お世話になりました。先生方は研究分野における知識量が膨大であり、ネットや文献で調査してもよくわからない点や研究で行き詰っている点を相談すると、解決への手助けをしていただけました。しかし、研究というものは誰もやったことがないことを手探りで明らかにしていく活動であるため、先生方も全てを知っているわけではなく、少しずつ条件を変更するなど試行錯誤を重ねることでしか解決できないことも多々ありました。そのことが大変苦労した点でもありますが、ネットが発達し、調べればすぐに何でもわかったような気になる現代だからこそ、誰もやったことがないこと誰もまだ知らないことを自分たちの手で明らかにしていくというのは、研究の醍醐味であり、楽しい点でもあると思います。そういった研究における楽しさを知れたこと、講義や研究、学会セミナー等を通して専門知識を付けることができたこと、専門家と専門外の方へのプレゼンテーションの方法の使い分けなど、細かく言い出すときりがないほど多くのことをこの2年間で学ぶことができ、とても有意義な時間を過ごすことができたと思います。

私は、4月から電力会社に勤めており、エネルギー供給を通して地元である九州を支えたいと思っています。現在は研修を受け、会社に関することや業務に関することを覚えている最中ですが、これから大学院で培った知識や経験を最大限に活かして仕事に取り組んで

いきたいです。